

# Tokyo Philharmonic Orchestra

Season 2024 subscription series

Booklet



2024 シーズン 定期演奏会

2024  
10

東京フィルハーモニー交響楽団

English pages inside



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます  
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを  
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

---

オフィシャル・スポンサー

---

**SONY** **Rakuten Mobile** **マルハン** **LOTTE** **ゆうちょ銀行**

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第1006回サントリー定期シリーズ  
**10月17日(木) 19:00開演** サントリーホール

第165東京オペラシティ定期シリーズ  
**10月18日(金) 19:00開演** 東京オペラシティ コンサートホール

第1007回オーチャード定期演奏会  
**10月20日(日) 15:00開演** Bunkamura オーチャードホール

10/17

10/18

10/20

## 指揮：出口大地

ヴァイオリン：服部百音\*

コンサートマスター：三浦章宏

### ハチャトゥリアン：『ヴァレンシアの寡婦』組曲より(約11分)

1. イントロダクション 3. 歌 6. ダンス

### ファジル・サイ：ヴァイオリン協奏曲『ハーレムの千一夜』 Op. 25\* (約25分)

I. アレグロ II. アレグロ・アッサイ III. アンダンティーノ  
 IV. [テンポ指定なし] — コーダ(アンダンティーノ)

— 休憩 (約15分) —

### コダーイ：ガランタ舞曲 (約15分)

### コダーイ：ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲 (約25分)

主題	モデラート	第9変奏
第1変奏	コン・プリオ	第10変奏
第2変奏		第11変奏
第3変奏	ピウ・モツ	第12変奏
第4変奏	ポーコ・カルマート	第13変奏
第5変奏	アパッショナート	第14変奏
第6変奏	テンポ(カルマート)	第15変奏
第7変奏	ヴィーヴォ	第16変奏
第8変奏	ピウ・ヴィーヴォ	フィナーレ
		ヴィヴァーチェ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団(10/18)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(10/20)



- ♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
- ♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフのご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
- ♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
- ♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

## 出演者プロフィール



©hiro.pberg\_berlin

指揮

出口大地

Daichi Deguchi, conductor

10/17

10/18

10/20

第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞。2021年にはベルリン放送交響楽団の公演にてヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務める。

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、2022年7月、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にて日本デビューを飾る。その後京都市響、読売日本響、仙台フィル、日本センチュリー響、群馬響、神戸室内管、新日本フィル、東京都響、兵庫芸術文化センター管、大阪フィル、東京響、神奈川フィル、大阪響と立て続けに共演し、今後も日本各地のオーケストラへのデビューが決定している。2024年9月からの1年間、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団のアシスタントコンダクターに選任された。

大阪府豊中市生まれ。関西学院大学法学部卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)卒業。2023年3月ハンスアイスラー音楽大学ベルリンオーケストラ指揮科修士課程修了。指揮を広上淳一、田代俊文、三河正典、下野竜也、クリスティアン・エーヴァルト、オペラ指揮をハンス・ディーター・バウムの各氏に師事。またネーメ、パーヴォ、クリスティアン・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、ヨハネス・シュレーフリ、井上道義、沼尻竜典各氏らのマスタークラスにオーディションを経て招待され、薫陶を受ける。

公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>

10/17

10/18

10/20



©YUJI HORI

ヴァイオリン

## 服部百音

Moné Hattori, violin

1999年生まれ。8歳でオーケストラと共演。10歳以降様々な国際コンクールで優勝やグランプリを受賞し、イタリアでのリサイタルを皮切りに国内外で演奏活動を始め。V・アシュケナージとスイス、イタリア公演。ハチャトゥリアン音楽祭、トランス・シベリアン音楽祭などにも参加。2020年にはフランス・リストチェンバーオーケストラとドイツツアーを行うがコロナ禍で帰国。国内ではN響、都響、東京フィル、日本フィル、読響、新日本フィル他数々の著名オーケストラ、指揮者と共演を重ねている。2021年にはNHK交響楽団、バーヴォ・ヤルヴィとの共演や翌年のドイツ・カンマーフィルとの共演も大好評を博す。2022年から自身の企画でのコンサート「STORIA」を展開し2024年にはNHK交響楽団、井上道義氏と一晩でシオスタコーヴィチの2つのヴァイオリン協奏曲を演奏するという驚異の企画で大成功をおさめた。また日本ではあまり演奏されない名曲の普及にも意欲的に取り組みファジル・サイのソナタの日本初演なども行った。使用楽器は日本ヴァイオリンより特別貸与のゲルネリ・デル・ジェス。

## 楽曲紹介

解説=小室敬幸

民族性を強く反映したクラシック音楽について、19世紀後半は「国民楽派」、20世紀前半は「民族主義」に括られることが多いのだが、実は日本独自の区別に過ぎず、どちらも「音楽におけるナショナリズム(愛国主義)」のあらわれに過ぎない。

言うまでもなく愛国心は、他民族に対する攻撃・排除と結びついてしまうと人類規模の悲劇をうむ。けれども愛国心なしでも、それぞれの分野ごとに影響力の強い国の文化に従属して飲み込まれてしまう。本日演奏されるようなアルメニア、トルコ、ハンガリーの音楽を——たとえJ.S. バッハやベートーヴェンと比べてたとしても!——軽んじないことは、現代社会において多様性(ダイバーシティ)を重視することと一緒なのである。

### ハチャトゥリアン 『ヴァレンシアの寡婦』組曲より

生前はソ連、現在はアルメニアの作曲家として紹介されることの多いアラム・ハチャトゥリアン(1903-1978)だが、両親の出身地は現在アゼルバイジャンであり、彼が生まれたティフリス(現:トビリシ)も現在はジョージア(旧:グルジア)の首都だ。当地では各国の文化が入り乱れていたという。アルメニアは1920年にソ連の前身に併合され、ハチャトゥリアンはその翌年にモスクワへ移り住んだ。グネーシン音楽大学とモスクワ音楽院で学び、作曲はミヤスコフスキー(プロコフィエフの親友)に師事。学生時代からアルメニア民謡を作品に取り入れることで頭角をあらわし、1936年に大学院を修了している。

演奏機会の多いピアノ協奏曲(1936)、ヴァイオリン協奏曲(1940)、バレエ『ガイーンズ』組曲(1943)はいずれも前半生の作品で、演劇の伴奏音楽として作曲された『ヴァレンシアの寡婦』(1940)もこの頃にかかれた。原作はスペインのロペ・デ・ベガ(1562-1635)による1620年に出版された戯曲。夫を亡くしたレオナルダにオットーとヴァレリオという2人の男が迫るが、レオナルダは自分が惹かれたカミロと結ばれるという喜劇だ。1952年に編み直された組曲から本日は3曲抜粋される。

**第1曲「イントロダクション」**は三部形式(A-B-A')。勇ましくも喜劇らしい主部Aに挟まれた中間部Bでは愛らしい旋律が繰り返される(ただし、ロリス・チェクナヴォリアン指揮 アルメニア・フィルの録音では主部が再現されずにコードに突入する)。**第3曲「歌」**は、バレエのパ・ド・ドゥのような音楽。最初にクラリネットが吹く夢見のようなメロディが、繰り返されて盛り上がっていく。**第6曲「ダンス」**は五部形式(A-B-A'-B'-A")。ひと節のなかに短調と長調が乱れる旋律Aと、繰り返されるたびに姿を変える旋律Bが交互に入れ替わって熱狂へと導いていく。

【作曲年代】1952年 【初演(劇付随音楽)】1940年11月14日、モスクワにて

【楽器編成】フルート2(ピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、グロッケンシュピール、カスタネット、ウッドブロック、シロフォン)、チェレスタ、ハープ、弦楽5部

## ファジル・サイ ヴァイオリン協奏曲『ハーレムの千一夜』Op. 25

アルメニアの西隣に位置するトルコで生まれたファジル・サイ(1970-)は現代を代表するコンポーザー=ピアニストで、特に『トルコ行進曲ジャズ Alla Turca Jazz』(1993)が有名だろう。ただし中核をなすのは母国の伝統を取り入れた音楽。そんな作品のひとつ、ヴァイオリンとピアノのためのソナタ Op. 7(1997)で見事な演奏を聴かせたヴァイオリニストのパトリツィア・コパチンスカヤ(黒海を挟んでトルコの北に位置するモルドヴァ出身)のために作曲されたのがこの協奏曲だ。

『千一夜(物語)』といえば、シェヘラザードという女性が「ハーレム(日本でいえば江戸城の“大奥”のような原則男子禁制の住まい)」に入り、女性不信に陥ってしまった王に殺されぬよう摩訶不思議な物語を毎晩披露する……という物語。実はこの王が治めるイラン帝国サーサーン朝は、現在のトルコやアルメニアも支配にしていたのである。本作はリムスキー=コルサコフのように物語を表現し

たのではなく、当時のハーレムの雰囲気空想して自由に描いているようだ。切れ目なく続く全4楽章で構成される。

**第1楽章**ではハーレムに住む様々な女性たちが描かれる。トルコなどで伝統的に使われてきた「クデュム Kudüm」という打楽器に導かれて登場するヴァイオリン独奏が、ハーレムのなかを案内してくれているかのようだ。楽章終わりには「ベンディーール Bendir」という鈴のないタンバリンのような打楽器と共に奏されるヴァイオリンの短いカデンツァを経て、**第2楽章**に突入。タンバリンと胴の長い太鼓「ダラブッカ Darbouka」によるリズムに乗って、狂乱のダンスが繰り広げられる宴の一夜がはじまる。まるで夜の空が白んでいくような静かなカデンツァを経て、宴の翌朝を描いた**第3楽章**へ。妖しげな前奏のあと、ハーブ等の伴奏にのってトルコの有名な民謡「キヤーティビム Kâtibim」が奏でられていく。別のメロディを挟んで、最後はまた民謡が戻ってくるが散り散りになっていき、再びクデュムのリズムに導かれて**第4楽章**に。第1楽章のメロディが回帰するが、タンバリンが登場してからはトルコの伝統的な9拍子（ジャズの有名曲「トルコ風ブルー・ロンド」で使われたリズム）が主導権を握る。

【作曲年代】2007年 【初演】2008年2月20日、ルツェルンにてジョン・アクセルロッドの指揮、パトリツィア・コパチンスカヤの独奏による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ、イングリッシュホルン、クラリネット2、ファゴット、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン、チューバ、打楽器（タンブリン、小太鼓、大太鼓、ロート・タム、ウィンド・チャイム、サスペンド・シンバル、ウッドブロック、ヴィブラフォン、マリンバ、クデュム、ベンディーール、ダラブッカ）、チェレスタ、ハーブ、弦楽5部



## コダーイ ガラಂತ舞曲

オーストリアの南東に位置するハンガリーで生まれ育ったゾルターン・コダーイ(1882-1967)は、作曲家としてのみならず、音楽教育者、そして民謡の研究者として多大な業績を遺している。彼の影響を受けて民謡を研究するようになった同郷のバルトークが周辺の国々まで採集に赴き、有名な「ルーマニア民俗舞曲集」のような作品を書いたのに対し、コダーイは原則としてハンガリー国内に研究対象を絞って、自作にその要素を取り入れた。

『ガラಂತ組曲』(1933)は、ブタペスト・フィルハーモニー協会の設立80周年を記念して委嘱された。作曲者が2～9歳にかけて過ごしたガラಂತ(1918年までハンガリーの領内で、現在はスロヴァキアの都市)の名を冠した『ガラಂತのジプシーたちによるハンガリー民族舞曲集』(1903)に掲載された楽譜をもとにして、当時消えつつあった古いスタイルのジプシー音楽——チャールダーシュではなく、その原型となったヴェルブンコシュ(兵隊集めを起源にもつ舞曲)——を発展的に蘇らせようとした作品だ。ゆったりとした序奏を締めくくる技巧的なフレーズに続いてクラリネットが吹くのが、全曲を統べる主題(ラッシュューと呼ばれる遅い部分)で、この主題が何度も繰り返し登場するあいだに、多彩な舞曲(フリッシュと呼ばれる速い部分)が挟み込まれていく。

【作曲年代】1933年 【初演】1933年10月23日、ドホナーニ・エルネーの指揮による  
【楽器編成】フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、打楽器(小太鼓、トライアングル、グロッケンシュピール)、弦楽5部

## コダーイ ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲

ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲(1937-1939)は、アムステルダム・コンサートヘボウ管弦楽団の創立50周年を記念して委嘱された。この民謡では捕らわれた捕虜の解放が歌われており、ナチス・ドイツにすり寄っていった当時のハンガリー王国に対する抗議を込めてコダーイは題材に選んだようだ。

楽譜上には第1～16変奏、フィナーレという表記があり、第1変奏の前を主題(最初は低弦が提示し始める)と捉えると18のセクションに分けられる。それらはいくつかの変奏ごとにまとめ直すと、「ソナタ形式」あるいは「4楽章構成」に見立てられるのではないかという研究がなされてきた。

筆者が妥当だと思うのは後者で、[第1楽章]に相当するのが主題(≒序奏)と第1～6変奏、[スケルツォ]が第7～10変奏(遅くなる第9変奏は中間部)、[緩徐楽章]が第11～14変奏、[終楽章]が第15～16変奏とフィナーレ(ここで主題が長調になって再現される!)……という見立てが可能だ。

[作曲年代] 1939年 [初演] 1939年11月23日、ウィレム・メンゲルベルクの指揮による  
[楽器編成] フルート3(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2(2番はコーラングレ持ち替え)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器(トライアングル、シンバル、グロッケンシュピール)、ハーブ、弦楽5部

こむろ・たかゆき／東京音楽大学で作曲を学んだ後、同大学院では音楽学を専攻。修了後は大学の助手と非常勤講師を経て、現在は音楽ライター。クラシック音楽、現代音楽、ジャズ、映画音楽を中心に演奏会やCDの曲目解説、雑誌やWEBメディアにインタビュー記事を執筆。また、現在進行形のジャズを紹介するMOOK『Jazz The New Chapter』にも寄稿している。共著に『聴かすざらいのための吹奏楽入門』『commons: schola〈音楽の学校〉vol.18 ピアノへの旅』。

The 1006th Suntory Subscription Concert  
**Thu. Oct. 17, 2024, 19:00 at Suntory Hall**

The 165th Tokyo Opera City Subscription Concert  
**Fri. Oct. 18, 2024, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall**

The 1007th Orchard Hall Subscription Concert  
**Sun. Oct. 20, 2024, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall**

Daichi Deguchi, conductor

Moné Hattori, violin\*

Akihiro Miura, concertmaster

Khachaturian:

"The Valencian Widow" suite (excerpts) (ca. 11 min)

I. Introduction III. Song VI. Dance

Say:

Violin Concerto, Op. 25 "1001 Nights in the Harem"\* (ca. 25 min)

I. Allegro II. Allegro assai III. Andantino

IV. [without tempo indication] — Coda (Andantino)

— intermission (ca. 15 min) —

Kodály: Dances of Galánta (ca. 15 min)

Kodály:

Variations on a Hungarian Folksong "The Peacock" (ca. 25 min)

Theme	Moderato	Variation 9
Variation 1	Con Brio	Variation 10 Molto vivo
Variation 2		Variation 11 Andante espressivo
Variation 3	Piu mosso	Variation 12 Adagio
Variation 4	Poco calmato	Variation 13 Tempo di marcia funebre
Variation 5	Appassionato	Variation 14 Andante, poco rubato
Variation 6	Tempo (Calmato)	Variation 15 Allegro giocoso
Variation 7	Vivo	Variation 16 Maestoso
Variation 8	Piu vivo	Finale Vivace

Presented by the Tokyo Philharmonic Orchestra

Co-presented by Tokyo Opera City Cultural Foundation (Oct. 18)

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |  
 Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Oct. 20)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

17  
Oct

18  
Oct

20  
Oct

## Artists Profile



©hiro.pberg\_berlin

Daichi Deguchi,  
conductor

17 Oct

18 Oct

20 Oct

Daichi Deguchi is the 1st-prize winner of the Khachaturian International Competition 2021(Conducting) and was awarded the 2nd prize (no 1st prize was given) at the Kussewitzky International Conducting Competition, also winning the Orchestra Special Prize. Currently Deguchi is serving as Assistant Conductor of Orchestre Philharmonique royal de Liège (2024/25 season)

Born in Osaka, Japan, Deguchi learned piano and horn since childhood. After graduating from the faculty of law at the Kwansei Gakuin University, He studied conducting at the Tokyo College of Music and at die Hochschule für Musik Hanns Eisler Berlin graduated in 2023. Deguchi has studied under Junichi Hirokami, Tatsuya Shimono, Christian Ehwald, Hans-Dieter Baum and others.

Deguchi works with numerous orchestras in Europe, such as Brandenburgisches Staatsorchester Frankfurt, Danube Symphony Orchestra, George Enescu Philharmonic Orchestra, Symphoniker Hamburg, Orchestra Magna Grecia, State Academic Orchestra of the Republic Kazakhstan, and Tallinn Chamber Orchestra among others.

In Japan, Deguchi made his professional orchestra debut at subscription concert of Tokyo Philharmonic Orchestra in July,2022 that led him continuous debut to Japanese orchestras such as City of Kyoto Symphony Orchestra, Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Japan Century Symphony Orchestra among others.



©YUJI HORI

## Moné Hattori, violin

17  
Oct18  
Oct20  
Oct

Born in 1999, Moné Hattori first performed with an orchestra at the age of eight. Since the age of ten, she began performing both domestically and internationally, starting with recitals in Italy, winning first and grand prizes in various international competitions. She has toured Switzerland and Italy with Vladimir Ashkenazy and participated in the Khachaturian Music Festival and the Trans-Siberian Art Festival, among others.

In 2020, she toured Germany with the Franz Liszt Chamber Orchestra but returned to Japan due to the COVID-19 pandemic. In Japan, she has performed with the NHK Symphony Orchestra, Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, Tokyo Philharmonic Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra, Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, New Japan Philharmonic Orchestra, and with many other renowned ensembles and conductors. Her concerts with the NHK Symphony Orchestra and Paavo Järvi in 2021, and with the Deutsche Kammerphilharmonie Bremen the following year, were highly acclaimed.

In 2022, Moné Hattori launched her own concert series, "STORIA." In 2024, she performed both of Shostakovich's violin concertos in one night with the NHK Symphony Orchestra and Michiyoshi Inoue, a remarkable achievement that was acclaimed for its great success. She has also actively worked to promote rarely performed masterpieces in Japan, including the Japanese premiere of Fazil Say's Sonata. She plays a Guarneri del Gesù violin on special loan from Nippon Violin.

# Program Notes

Text by Robert Markow

## Khachaturian: "The Valencian Widow" suite (excerpts)

Aram Khachaturian remains one of the most brilliant composers to come out of the former Soviet Union. The Piano Concerto, Violin Concerto, incidental music for the play *Masquerade*, music for the spectacular ballet *Spartacus* and the Sabre Dance from *Gayaneh* ensure his continuing popularity in the concert hall.

The composer described his native Tbilisi as “a city rich in a music tradition of its own. From boyhood I was steeped in an atmosphere of folk music. As far back as I can remember there were always Armenian, Georgian and Azerbaijanian folk tunes played and sung ...The original substance of these impressions, formed in an early childhood in close communion with the people, has always remained the natural soil nourishing my work.” With these words in mind, it is not surprising to find that most of Khachaturian’s music is thoroughly steeped in modal melodies, driving rhythms, exhilarating dance patterns and instrumental combinations reminiscent of folk orchestras of his Armenian heritage. The music for *The Valencian Widow* is no exception. Listeners familiar with the better-known suites from *Masquerade*, *Gayane*, and *Spartacus* will find Khachaturian’s characteristic style traits in *The Valencian Widow* as well.

The six-movement suite, from which we hear three excerpts on this program, is derived from the incidental music Khachaturian wrote for a 1940 production in Moscow of the comedy *La viuda de Valencia* (The Valencian Widow) by the Spanish playwright, poet and novelist Lope de Vega (Félix Lope de Vega y Carpio, to give him his full name; 1562-1635, contemporaneous with Shakespeare). He is widely regarded as second only to Miguel de Cervantes (author of *Don Quixote*) in Spain’s Golden Age of Baroque literature. The Lope de Vega Museum in Madrid describes him as “a rogue and a womanizer,” and that he was “almost as precocious and prolific with his lovers as he was with his studies and his plays.” Hence, it is hardly surprising to find among his thousand or so works a play about

17  
Oct

18  
Oct

20  
Oct

a young lady who claims she wishes to remain unattached following the death of her husband, only to be found entertaining various men by night in her bedchamber and playing “hard to get” to the one she most desires.

**ARAM KHACHATURIAN:** Born in Tbilisi (Tiflis), Georgia, June 6, 1903; died in Moscow, May 1, 1978

**Work composed:** 1952 **World premiere (incidental music):** November 14, 1940 in Moscow

**Instrumentation:** 2 flutes (doubling on piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, triangle, cymbals, glockenspiel, castanet, woodblock, xylophone), celesta, harp, strings

Say:

## Violin Concerto, Op. 25 "1001 Nights in the Harem"

Fazil Say maintains a dual career as both pianist and composer. He wrote his first composition at the age of fourteen – a piano sonata, while a student at the conservatory in his natal city of Ankara. Since then his catalogue has grown into an eclectic body of works that include five symphonies, four piano concertos (which he plays himself), the oratorio *Nazim* based on poems of the famous Turkish poet Nazim Hikmet and premiered in Ankara in the presence of Turkey's President in 2001; and orchestrations and virtuosic adaptations of solo piano works with orchestra. Say also has a passion for jazz and improvisation, a pursuit that led him to found the Worldjazz Quartet with Turkish *ney* performer Kudsi Ergüner.

The Violin Concerto was commissioned by the Lucerne Symphony Orchestra, which gave the world premiere on February 20, 2008 with John Axelrod conducting. The soloist was the concerto's dedicatee, Patricia Kopatchinskaja, who has also been Say's recital partner for nearly twenty years now. The composer describes his concerto in these terms:

“My Violin Concerto consists of four movements whose inspiration is loosely connected with Scheherazade's *Thousand and One Nights*. The first movement is set inside the harem; a variety of women from the harem are introduced, each with her own personality. The second movement is a frenzy of dance – in effect a party night with an abundance of different

17  
Oct

18  
Oct

20  
Oct

types of dance music. The third movement depicts the next morning and consists primarily of variations on a well-known Turkish song. The fourth movement begins dramatically, but develops during the course of the movement more and more into a reminiscence of all the previous events and the work culminates dreamily in a happy mood with sensuous oriental sounds.

“As is appropriate for an oriental soundscape, the orchestra includes a series of Turkish percussion instruments such as a kudüm or bendir, but also glockenspiel, marimba, vibraphone, celesta, and harp. The violin part is highly virtuoso and unites the four movements into an intensely atmospheric whole in which the solo violin soars off into a solo cadenza between each movement, sometimes accompanied by one of the percussion instruments.”

**FAZIL SAY:** Born in Ankara, January 14, 1970; now living in Istanbul  
**Work composed:** 2007 **World premiere:** February 20, 2008 in Lucerne, conducted by John Axelrod with Patricia Kopatchinskaja as the soloist  
**Instrumentation:** piccolo, 2 flutes, oboe, English horn, 2 clarinets, bassoon, contrabassoon, 4 horns 2 trumpets, trombone, tuba, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, rototom, wind chime, suspended cymbal, woodblock, vibraphone, marimba, Kudüm, Bendir, Darbuka), celesta, harp, strings

## Kodály: Dances of Galánta

“The voice of Kodály in music is the voice of Hungary,” proclaimed the English composer Arthur Bliss. Kodály’s compatriot Béla Bartók said much the same thing: “If I were asked in whose music is the spirit of Hungary most perfectly embodied, I would reply, in Kodály’s. His music is indeed a profession of faith in the spirit of Hungary.”

Kodály shares with Bartók the reputation for being one of the two greatest Hungarian composers of the twentieth century. Born just a year apart, they also shared during their lifetimes a deep common interest in music of their homeland and conducted extensive scholarly research into music of the Hungarian gypsies and peasants in addition to that of surrounding countries. As such, they were among the first important ethnomusicologists. Nearly all of Kodály’s best-known works incorporate folk song and folk dance music from different parts of his country: the



opera *Háry János*, the *Dances of Marosszek*, the *Psalmus Hungaricus*, the *Peacock Variations*, and the *Dances of Galánta*.

Galánta is a small town in what is today Slovakia, located east of Vienna and north of Bratislava. It was here that Kodály received his first strong musical impressions from gypsy bands that frequently passed through. He explained that the musical subjects in his *Dances of Galánta* came from an ancient edition of Hungarian gypsy dances published in Vienna around 1800. The composition consists of a unified set of six dances played without interruption, plus an introduction and a coda. Melodic material of the first dance is repeated throughout to achieve unity. Preceding the first dance is a brief clarinet cadenza, which returns near the end of the work. Surging melodic ideas, strongly rhythmic pulses, and colorful orchestration characterize the music. The melodies are derived from folksong – some nostalgic, some exuberant, most presented initially by woodwind instruments, especially the clarinet.

Kodály wrote the *Dances of Galánta* in 1933 for the eightieth anniversary of the founding of the Budapest Philharmonic Society. His distinguished Hungarian colleague Ernő Dohnányi conducted the premiere on October 23<sup>rd</sup> of that year.

17  
Oct18  
Oct20  
Oct

**ZOLTÁN KODÁLY:** Born in Kecskemét, Hungary, December 16, 1882; died in Budapest, March 6, 1967

**Work composed:** 1933 **World premiere:** October 23, 1933, conducted by Ernő Dohnányi

**Instrumentation:** 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, timpani, percussion (snare drum, triangle, glockenspiel), strings

## Kodály: Variations on a Hungarian Folksong "The Peacock"

The *Variations on a Hungarian Folk Song "The Peacock"*, to give the work its full title, was written in 1938-39 for the fiftieth anniversary of the Concertgebouw Orchestra of Amsterdam. More than a decade earlier, Kodály had made his debut there as a conductor. The first performance was

given on November 23, 1939 with Willem Mengelberg conducting.

As the subject of a 25-minute theme-and-variations set, Kodály chose the best-known of all Hungarian folk songs, “The Peacock.” In the opening bars, Kodály presents the theme in its most simple, elemental form, played softly by cellos and double basses. Kodály thereupon fashions a fascinating musical world out of the original scrap of a tune, casting it in constantly varied moods, rhythmic figurations, melodic elaborations, colors, ranges, textures, tempos and meters. Nearly every instrument gets a chance in the spotlight at one point or another, making it something of a concerto for orchestra as well. Variations 1-10 are all brief and fairly quick in tempo, many of them dancelike in character. A notable exception is Variation 9, in which gently rippling woodwinds accompany the melodic line played alternately in the lower strings and in the sweetly soaring violins. Variations 11-14 form the central group, which is characterized by slower tempos and a somber cast. The elegiac No. 11 features the nostalgic, plaintive sound of the English horn, while No. 12, the emotional heart of the *Peacock Variations*, takes the entire orchestra to a passionate climax from which it recedes back into darkness and mist. No. 13 is marked in the score *Tempo di marcia funebre*, while No. 14, by contrast, seems like a play of light with its languorous tendrils of sound from the flute played against exquisitely delicate streams of harp arpeggios. With Variation 15, we return to the exuberant, folk dance spirit, which continues into the final variation and the long Finale, where Kodály exploits the most brilliant colors of the orchestra and energetic rhythms to bring one of his greatest works to a rousing conclusion.

Work composed: 1939 World premiere: November 23, 1939, conducted by Willem Mengelberg

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes (2nd doubling on English horn), 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, timpani, percussion (triangle, cymbals, glockenspiel), harp, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

## Season 2024 Upcoming Subscription Concerts

We are pleased to inform dear audience the Tokyo Phil's subscription series. You can select from 3 subscription concerts at Tokyo's top venues, Bunkamura Orchard Hall, Tokyo Opera City Concert Hall, and Suntory Hall. Please join us the ultimate concert experience!

For more details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en/>

## November

**conductor: Andrea Battistoni**, chief conductor

Wed, Nov 13, 2024, 19:00 start  
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Nov 17, 2024, 15:00 start  
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Nov 19, 2024, 19:00 start  
at Suntory Hall

Mahler:  
Symphony No. 7 *Nachtmusik*

Single tickets available

## Single ticket prices

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300)

C¥5,500(¥4,950)

( )=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

## How to join TOKYO PHIL FRIENDS

⇒ <https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>

### Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522  
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



## 東京フィルだより — 2024年シーズン今後の定期演奏会

### 11月定期演奏会

第166回東京オペラシティ定期シリーズ

11月13日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第1008回オーチャード定期演奏会

11月17日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

第1009回サントリー定期シリーズ

11月19日(火) 19:00 サントリーホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ

(首席指揮者)

### マーラー／交響曲第7番『夜の歌』

公演時間：約80分(休憩なし)



アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文

1回券発売中

### 首席指揮者バッティストーニ特別寄稿

#### マーラー 交響曲第7番『夜の歌』によせて より



「現代の音楽解説者の多くは今や、グスタフ・マーラーの交響曲の価値に加えてその人気を認めるのに異論はないだろう。この作曲家の名声と評論家たちからの高評価は、20世紀を通じて加速度的に増加してきた。

今日では、彼の交響曲はベートーヴェンのそれと同じくらい頻繁に演奏され録音されており、音楽愛好者たちも、同様の期待をもってそれらの演奏を待ち望んでいるように思える。(中略)

第7番は一見したところ、彼のすべての交響曲の中で最も演奏の機会に恵まれない作品であり、多くの聴衆にとっては未だに何か謎めいた交響曲と映る。

私はこれまでずっとその理由を解明しようとしてきた。なぜなら私自身は反対に、すぐにこの作品に恋をしてしまったから。

私は直ちにこの作品の見かけ上の矛盾に魅了された。思うにこの交響曲は、マーラーのその時点までのすべての作曲経験を凝縮したともいえるべき存在なのだ」

(訳：井内美香)

【料金】1回券 SS¥15,000 SY¥10,000 AY¥8,500 BY¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは  
東京フィルチケット  
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/発売日を除く土日祝休)  
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

## 11月定期演奏会の聴きどころ



首席指揮者アンドレア・バッティストーニがマーラー「第7番」を語り尽くしたインタビューの後半をお届けします。(全文は東京フィルウェブサイトの特設ページからご覧いただけます)



——第4楽章の「距離のある冷静さを持った愛」とは具体的にどのようなものなのでしょう？

「第4楽章を聴くと、私はイタリアのコメディア・デラルテの世界、とりわけジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロの描いたアルレッキーノやプルチネッラを思い起こします。それはときに不気味なものにも映るので、みなが期待するロマン派的な愛の音楽とは異なるのですが、その本質にはやはり感動的な愛があるのです」

——第4楽章のギターやマンドリンだけでなく、第1楽章で活躍するテノールホルンも、普段オーケストラでは用いられない楽器です。マーラーはなぜこうした楽器を交響曲第7番に取り入れたのでしょうか？

「マーラーは音に対する感受性が研ぎ澄まされた人だったので、オーケストラで普段使われる楽器でなくても、自らの表現に必要であれば用いたのでしょう。第1楽章の冒頭は、太古の巨大な生き物が森のなかの洞穴で、重たい身体を横たわらせて苦しんでいるかのようです。マーラーはいつも、交響曲の冒頭でその音楽のイメージをはっきりと示して、聴き手を作品の世界に引き込みます。第7番の不気味でありながら厳粛な冒頭も、実に見事です」。

——たしかに第3番のホルン8本のユニゾンや、第5番のトランペットのファンファーレなど、マーラーの交響曲の冒頭は印象的なものばかりですね。

「マーラーの交響曲には、冒頭部分に限らず、非常に身体的で立体的な音楽表現が見られます。こうした作曲家



ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ「プルチネッラの勝利」(1760/1770、コペンハーゲン国立美術館蔵)

はマーラーのほかにはプッチーニしか思いつきません。プッチーニはシンプルなアイデアを巧みなオーケストレーションによって具体化し、聴衆をオペラの異世界へと誘いました。このようにマーラーとプッチーニには似通った部分があるのですが、ふたりは互いのことを嫌っていたようです(笑)」

——バッティストーニさんと東京フィルのマーラーは、第7番で4曲目となります。演奏を重ねるなかで、互いのマーラーに対するイメージは近づいていったのでしょうか？

「私にとって、東京フィルとマーラーを演奏することは多くの学びがあります。オーケストラは作品をよく知っており、とりわけ第5番を演奏したときには、東京フィルの作品理解の深さに驚かされました。私はオーケストラのマーラー観を受け入れながら、それを発展させようと努めています。東京フィルのマーラーに対するアプローチや解釈は、楽団員一人ひとりの経験に基づくものであると同時に、これまで東京フィルの指揮台に立ってきたマエストロたちが遺してくれたものでもあります。マエストロ チョン・ミョンフンの指揮は東京フィルのマーラー演奏に確実に息づいていると思います。私はそれを変えるつもりはありません。東京フィルが培ってきたマーラー演奏の伝統に新しいアイデアを積み上げていくのが私の仕事だと思っています。第7番に限って言えば、東京フィルが最後にこの交響曲を取り上げてからかなりの年月が経っていますし、私自身も初めて指揮をする作品なので、お互いに新鮮な気持ちで演奏に取り組むことになるはずです。

東京フィルは20世紀のレパートリーを得意とするオーケストラです。第7番はロマンティックな音楽であると同時に、20世紀の音楽へと繋がっていく前衛的な作品でもありますので、東京フィルの持ち味が存分に発揮されると確信しています」

——第7番のあとにもバッティストーニさんと東京フィルのマーラー・シリーズが続いていくことを日本の音楽ファンは期待しています。

「イタリアにはカルロ・マリア・ジュリーニ、クラウディオ・アバド、ジュゼッペ・シノーポリ、リッカルド・シャイーなど、優れたマーラー指揮者の系譜があります。私もマーラーのスコアの研究を重ねて、いずれは東京フィルと全てのマーラーの交響曲を演奏できたら良いなと思っています」

——最後に、この演奏会に行こうか迷っている人へ向けて、バッティストーニさんからメッセージをお願いします。

「マーラーの交響曲第7番はあまり演奏されない作品なので、聴きに行くのをやめようかと考えてしまうこともあるかもしれませんが、感動的な旋律、常軌を逸した色彩、エキサイティングなサウンドなど、この交響曲には多彩な魅力が詰まっています。私は第7番のカウベルの響きが大好きなのですが、その美しさは録音では伝わりきらないことも多く、ホールで聴いてこそ味わえるものです。ぜひホールに来て、マーラーの魔法を東京フィルの生演奏で楽しんでください」



2022年9月定期演奏会 バッティストーニ指揮マーラー「交響曲第5番」より ©上野隆文

八木宏之(やぎ・ひろゆき)／1990年東京生まれ。青山学院大学文学部史学科芸術史コース卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程(修士:音楽学)およびソルボンヌ大学音楽専門職修士課程修了。2021年春にWebメディア『FREUDE』を立ち上げ、その運営を行う株式会社メディアシオンを設立。クラシック音楽を中心にプログラムノートやライナーノーツを多数執筆するほか、コンサートのプレトークなども積極的にこなしている。

好評発売中!

ニューイヤーコンサート2025 ～どこかで出会った、あのメロディ～

日時・会場 2025年1月2日(木)15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール  
2025年1月3日(金)15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール

出演 指揮:角田鋼亮

箏:LEO(1月2日) ヴァイオリン:前田妃奈(1月3日) 司会:朝岡 聡



角田鋼亮  
©Makoto Kamiya

LEO(1月2日)  
©Nippon Columbia

前田妃奈(1月3日)  
©Taira Tairadate

朝岡 聡

曲目 J. シュトラウスⅡ／ワルツ『春の声』

宮城道雄、池辺晋一郎／管弦楽のための『春の海』、今野玲央／松風(2日のみ)  
マスネ／タイスの瞑想曲、チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲第1楽章(3日のみ)  
お客様の投票で演奏曲が決まる「福袋プログラム」  
ラヴェル／ボレロ ほか

チケット料金(税込・全席指定) S席¥6,900 A席¥5,800 B席¥3,800



©K.Miura

チケット問合せ

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522(10:00～18:00 土日祝休)  
<https://www.tpo.or.jp/>

Bunkamuraチケットセンター 03-3477-9999(オペレーター対応10:00～17:00)  
<https://www.bunkamura.co.jp>



## 第57回 千葉市定期演奏会

- 日時・会場** 2025年2月16日(日) 15:00開演  
千葉市民会館 大ホール
- 出演** 指揮：角田鋼亮  
チェロ：鳥羽咲音\*
- 曲目** ドヴォルザーク／スラヴ舞曲第1番  
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲\*  
ドヴォルザーク／交響曲第8番
- 発売日** 最優先発売(東京フィル賛助会員・定期会員)  
／優先発売(東京フィルフレンズ会員)発売中  
一般発売 10月22日(火)10:00

### チケット問合せ

東京フィルチケットサービス03-5353-9522  
(平日10:00～18:00)※10/12(土)は10:00～16:00で営業  
千葉市民会館043-224-2431



角田鋼亮



鳥羽咲音

©JuliaWesely

## 第二ヴァイオリン奏者の二宮祐子さんが退団されました。

第二ヴァイオリン奏者の二宮祐子さんが8月で定年退団されました。東京フィルメンバーとしての最後の出演は「第22回東京音楽コンクール弦楽部門 本選演奏会」でした。

「1983年の入団当時はまだ学生で、先輩方に色々教えて頂き、毎日が勉強の日々でした。その時に厳しく教わったことが強固な基盤となりました。この40年間で時代も変わりクラシックに留まらず様々なジャンルの曲を連日こなしていく内に、気がつくといろいろな曲に対応できるようになっていた、正にオーケストラに育て鍛えて頂いた、そんな40年でした。私が入団した当時と今の東京フィルの音色は随分違います。良い悪いとかではなく劇的に進化したと思います。最近では映画の映像に合わせて演奏するシネマコンサートなど、オリジナル音源に近い再現力と表現力の凄さはどこのオーケストラにも真似できないと断言できます。私の愛する東京フィルのこの先の更なる成長を、皆様も共に応援して頂けたら幸いです。そして私を支えて下さった全ての皆様に心から感謝致します。長い間 本当にありがとうございました。」

長きにわたり、ありがとうございました。ますますのご活躍をお祈りします。



## Photo Reports 2024年9月のコンサートより

9月の公演は、東京フィルにゆかり深い二人のマエストロが登場。桂冠指揮者尾高忠明とは「午後のコンサート」、名誉音楽監督チョン・ミョンフンとは定期演奏会でオペラ演奏会形式ヴェルディ『マクベス』をお届けしました。

第35回 平日の午後のコンサート(9/4)  
第23回 渋谷の午後のコンサート(9/8)  
〈心躍らせたあの曲との再会〉

スッペ／歌劇『軽騎兵』序曲  
ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ  
マスネ／タイスの瞑想曲\*  
サラサーテ／ツィゴイネルワイゼン\*  
エルガー／弦楽セレナード  
エルガー／行進曲『威風堂々』第4番  
エルガー／行進曲『威風堂々』第1番

指揮とお話：尾高忠明(桂冠指揮者)  
ヴァイオリン：竹内鴻史郎\*  
コンサートマスター：三浦章宏



桂冠指揮者尾高忠明の指揮とお話、俊英竹内鴻史郎さんのヴァイオリンとともに、往年の名曲の数々をお届けしました

9月定期演奏会(9/15, 17, 19)

撮影＝上野隆文

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)  
マクベス：セバ스티アン・カターナ(バリトン)  
マクベス夫人：ヴィットリア・イエオ(ソプラノ)  
バンクォー：アルベルト・ペーゼンドルファー(バス)  
マクダフ：ステファノ・セッコ(テノール)  
マルコム：小原啓楼(テノール)  
マクベス夫人の侍女：但馬由香(メゾ・ソプラノ)  
医者：伊藤貴之(バス)  
マクベスの従者、刺客、伝令：市川宥一郎(バリトン)  
第一の幻影：山本竜介(バリトン) / 黄木 透(助演)  
第二の幻影：北原瑠美(ソプラノ) / 石田 滉(助演)  
第三の幻影：吉田桃子(ソプラノ) / 矢口美乃里(助演)  
合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：富平恭平)  
フリーアンス：矢口美乃里(黙役)  
コンサートマスター：近藤 薫



舞台監督：幸泉浩司、近藤 元(アートクリエーション) / 舞台監督助手：小田原 築、堀井基弘(アートクリエーション) / 照明：喜多村 貴(劇光社) / 音響：オルフェオ / 衣裳：東京衣裳 / ヘアメイク：趙 英 / 小道具：アートクリエーション / 字幕：本谷麻子 / 字幕操作：塩谷奈々(Zimakuプラス) / 音楽スタッフ：古瀬安子、山中麻鈴 / 通訳：村上真理(イタリア語)

### ヴェルディ／歌劇『マクベス』 (オペラ演奏会形式)

全4幕・日本語字幕付き原語(イタリア語)上演  
原作：ウィリアム・シェイクスピア『マクベス』  
台本：フランチェスコ・マリヤ・ピアールヴェ、アンドレア・マッフェイ





作曲家ヴェルディが歌劇『マクベス』で重要な存在のひとつと綴った『魔女の合唱』では、新国立劇場合唱団がマエストロのアイディアによる演技・振付とともに会場を魅了しました



王位を狙って主君や盟友に手をかけたマクベス夫妻が破滅してゆく様子が描かれる本作。題名役をセバスティアン・カタリーナが担当しました

数々の罪を犯し夢遊病におかされるマクベス夫人の心の揺らぎを、ヴィットリア・イェオが見事な演唱で表現しました



東京フィルは2022年より『ファルスタッフ』『オテロ』『マクベス』と続けて、シェイクスピア&ヴェルディの傑作オペラ3作を、マエストロ チョン・ミョンフンのもと一丸となってお届けしました

## 音楽の力で人を元気に マエストロ チョン・ミョンフン氏の 人柄に惹かれて

医療法人社団竹口病院 常務理事  
森本 雅之



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第28回は、パートナー会員としてご支援くださっている森本雅之様。東京フィルとの出会いをきっかけに始められ、現在もご自身で取り組まれている社会貢献活動について、綴っていただきました。



江戸時代中期の儒学者で米沢藩主・上杉鷹山の師である細井平洲の言葉に「泣き申さず候ては、化し申さず候」があります。人間は真に涙を流して感動したとき素直になり、向上心が芽生え考える力が生まれるというもので、古今東西、人は感動を追い求めています。

私はこの感動を人に届けようと、東京フィルの力を借りて40年近く様々な活動に取り組んできました。

発端は、高校時代の親友・熊野輝光氏(阪神タイガーススカウト)が1984年のロサンゼルスオリンピックで野球日本代表主将として金メダルを獲り、翌年プロ野球パ・リーグで新人王に輝いたことです。その雄姿を見て私は感動し心が動かされ、人が喜んでくれることをしたいとの思いが沸々と湧いてきました。

また、ちょうどそのころ、友人に誘われて初めて経験した生オーケストラによるドヴォルザーク『新世界』、ムソルグスキー『展覧会の絵』に心が震えるほど感動し、私をクラシックの世界へと誘いました。



東京フィルとの活動を  
学生教育に活かす

この二つがきっかけで、東京フィルに協力をお願いして私の勤務先の東京医科大学八王子医療センターで患者さんのための病院コンサートを始めるようになりました。

これが縁で、世界的な指揮者のチョン・ミョンフン氏(東京フィル名誉音楽監督)が指揮する東京フィルの演奏に出会い、それまで経験したことのない鳥肌が立つ感動を覚え、チョン氏と東京フィルに惹かれていきました。

チョン氏が放つオーラには、人の心を引き寄せ会場全体を熱気で包み込む大きな力があり、日本はもとより世界中の人々を魅しています。

チョン氏は、自分の任務は楽譜に生命を吹き込み、生命を宿したまま聴衆に届け、それを聴衆と分かち合うことなので、常に生命に満ちあふれた演奏をしなければならないと語っています。

チョン氏の姿勢に共感した私は、病院コンサートや東京フィルの演奏会における法政大学、早稲田大学、明治大学等の留学生との国際交流、拓殖大学での学生教育などとおして、東京フィルとの活動を社会に活かしてきました。

私の志は人が喜んでくれて幸せになってもらうことなので、これからも東京フィルの音楽の力を借りながら、人に感動を与え元気づけていきたいと思っています。

森本雅之(もりもと・まさゆき) / 1958年香川県生まれ。1980年専修大学経営学部卒業後、学校法人東京医科大学に入職。八王子医療センターの開設に携った後、大学本部で会計、総務、経営企画、広報・社会連携を経て企画部統合管理室長、図書館課長を歴任。2022、2024年度拓殖大学客員教授。2023年医療法人社団竹口病院常務理事。

秋冷の候、皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。  
 今月は、新進気鋭の指揮者・出口大地氏が  
 東京フィルの定期演奏会に再び登場いたします。  
 ソリストや楽団と創り出す世界観をぜひお楽しみください。  
 引き続き、当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

## 賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。  
 ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、  
 改めて御礼申し上げます。

### オフィシャル・サブライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

### 法人会員

#### 賛助会員 (五十首順・敬称略)

(株)III 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 増田 裕一
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 有吉 伸人	キャノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス シニアアドバイザー 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫  
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING  
代表取締役 暹澤 准

(株)滋慶  
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー  
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)  
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)  
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)  
代表執行役 社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)  
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店  
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ  
総長 都築 仁子

東急(株)  
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)  
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)  
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)  
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)  
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス  
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ  
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)  
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル  
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)  
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家  
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行  
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)  
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)  
代表取締役社長 斉藤 秀親

(株)三菱UFJ銀行  
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)  
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治  
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)  
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)  
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器  
代表取締役社長 山野 政彦

ユニアデックス株式会社  
代表取締役社長 田中 建

ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア  
理事長 今西 宏明

楽天モバイル(株)  
代表取締役会長 三木谷 浩史

(株)リソー教育  
代表取締役社長 天坊 真彦

後援会員

(株)アグレックス  
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレルソ たにぐちファミリークリニック  
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)  
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア  
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院  
理事長 加藤 徹

(医)康明会  
理事長 遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック  
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺  
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会  
代表理事 金子 真吾

(株)日税ビジネスサービス  
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

(株)ネスト  
代表取締役 太田 潤

富士通(株)  
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)  
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)  
執行役社長 漆間 啓

## ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。  
<https://www.tpo.or.jp/support>

### ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当  
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階  
Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp  
Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)



## 東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2024年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立113年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

### 賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリュード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

### 【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野<sup>かのまた</sup> 鹿丈)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

## 活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



### フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



### 文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022年度より東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、2023年度も6月から1月にかけて、8校の小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催いたしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



### 留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチヨン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



## “とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

### ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。



お問合せ・お申込み  
東京フィルチケットサービス  
電話:03-5353-9522  
(10時~18時/土日祝休)

9月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

平野 宗和、渡辺 由美子 (ほか匿名希望12名)

(五十音順・敬称略)



## 特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

# 東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督  
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン  
Myung-Whun Chung

首席指揮者  
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ  
Andrea Battistoni

桂冠指揮者  
Conductor Laureate

尾高 忠明  
Tadaaki Otaka

大野 和士  
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー  
Dan Ettinger

特別客演指揮者  
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ  
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター  
Associate Conductor

チョン・ミン  
Min Chung

永久名誉指揮者  
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄  
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者  
Permanent Member and  
Honorary Conductor

大賀 典雄  
Norio Ohga

コンサートマスター  
Concertmasters

近藤 薫  
Kaoru Kondo

三浦 章宏  
Akihiro Miura

依田 真宣  
Masanobu Yoda

アシスタント  
コンサートマスター  
Assistant concertmaster

坪井 夏美  
Natsumi Tsuboi

第1ヴァイオリン  
First Violins

小池 彩織☆  
Saori Koike

榎原 菜若☆  
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆  
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之  
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里  
Eri Urata

景澤 恵子  
Keiko Kagesawa

加藤 光  
Hikaru Kato

巖築 朋美  
Tomomi Ganchiku

坂口 正明  
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久  
Saku Suzuki

高田 あきの  
Akino Takada

田中 秀子  
Hideko Tanaka

栃本 三津子  
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀  
Miki Nakazawa

中丸 洋子  
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美  
Ikumi Hirozawa

弘田 聡子  
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子  
Misako Fujise

松田 朋子  
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン  
Second Violins

藤村 政芳◎  
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎  
Michi Mizutori

宮川 正雪◎  
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆  
Mayuko Takase

石原 千草  
Chigusa Ishihara

出原 麻智子  
Machiko Idehara

入江 真歩  
Maho Irie

岩田 瑞加  
Mizuka Iwata

太田 慶  
Kei Ota

葛西 理恵  
Rie Kasai

佐藤 実江子  
Mieko Sato

重岡 菜穂子  
Nahoko Shigeoka

中村 洋太  
Yohta Nakamura

本堂 祐香  
Yuuka Hondo

松岡 野乃花  
Nonoka Matsuoka

山代 裕子  
Yuko Yamashiro

吉田 智子  
Tomoko Yoshida

吉永 安希子  
Akiko Yoshinaga

若井 須和子  
Suwako Wakai

渡邊 みな子  
Minako Watanabe

ヴィオラ  
Violas

小峰 航一◎  
Koichi Komine

須田 祥子◎  
Sachiko Suda

須藤 三千代◎  
Michiyo Suto

加藤 大輔◎  
Daisuke Kato

今川 結☆  
Yui Imagawa

杉浦 文☆  
Aya Sugiura

伊藤 千絵  
Chie Ito

岡保 文子  
Ayako Okayasu

曾和 万里子  
Mariko Sowa

高橋 映子  
Eiko Takahashi

手塚 貴子  
Takako Tezuka

中嶋 圭輔  
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子  
Tazuko Hirumi

古野 敦子  
Atsuko Furuno

村上 直子  
Naoko Murakami

森田 正治  
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	岡村 彩香 Ayaka Okamura	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	五箇 正明 Masaaki Goka	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	小椋 陽咲 Hisaki Ogura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	クラリネット Clarinets	木村 俊介 Shunsuke Kimura	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	佐藤 俊輝 Toshiki Sato	テューバ Tubas	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	田場 英子 Eiko Taba	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	塚田 聡 Satoshi Tsukada	萩野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	鳥潟 さくら Sakura Torigata	豊田 万紀 Maki Toyoda		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		島潟 さくら Sakura Torigata	西川 優弥 Yuya Nishikawa		
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	山内 研自 Kenji Yamanouchi	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda			岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	トランペット Trumpets	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	河野 星◎ Akari Kono	川田 修一◎ Shuichi Kawata	秋田 孝訓 Takanori Akita	
	菅野 力 Chikara Sugano	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa	箕輪 綾子 Ayako Minowa	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者  
Principal○副首席奏者  
Assistant Principal☆フオアシュピラー  
Vorspieler

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『クラシックTV』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

## Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2024, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 113th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



## 役員等・事務局・団友

## 役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	佐治 信忠
副理事長	大塚 雄二郎		鈴木 啓介
黒柳 徹子	小山田 隆		瀬谷 博道
	田沼 千秋		日枝 久
専務理事	玉木 林太郎		
石丸 恭一	寺田 琢		
	遠山 敦子		
常務理事	野本 弘文		
工藤 真実	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

## 事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
	吉田 結衣			安田 ひとみ	

## 団友

安藤 栄作	岡部 純	近藤 勉	高岩 紀子	新田 清枝	松澤 久美子
池田 敏美	小樽 敦子	今野 芳雄	高野 和彦	新田 伸雄	湊 貞男
糸井 正博	小山 智子	齊藤 匠	高村 千代子	二宮 純	宮原 真弓
今井 彰	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	竹林 良	野仲 啓之助	山屋 房子
井料 和彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 陽子	畑中 和子	吉田 啓義
岩崎 龍彦	加藤 博文	嵯峨 美穂子	田中 千枝	玻名城 昌子	米倉 浩喜
植木 佳奈	金崎 真由美	桜木 弘子	田村 武雄	福村 忠雄	脇屋 俊介
上野 眞行	川人 洋二	笹 翠	津田 好美	藤原 勲	
生方 正好	木村 友博	佐々木 等	戸坂 恭毅	古野 淳	
大兼久 輝宴	黒川 正三	佐野 恭一	長池 陽次郎	細川 克己	
大澤 昌生	黒沢 誠登	清水 真佐子	長岡 慎	細洞 寛	
大和田 皓	河野 啓子	瀬尾 勝保	長倉 穰司	本田 詩子	

〈発行日〉 2024(令和6)年10月17日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉県 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン・本文イラスト〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra \*無断転載を禁ず(非売品)

## ～コンサートをお楽しみいただくために～

### ♪ チケットの座席番号をチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

### ♪ 開演時間をチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

### ♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器をチェック！

- ・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

### ♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認ください！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪



こころの時間

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2024

